

袋井市非核平和都市宣言を考える

袋井勤協 第18回

平和写真展

暑い夏が到来。戦後生まれの団塊世代も、後期高齢者となります。

私達は、戦後81年という長い平和の時代を享受してきました。これは、日本国憲法を忠実に実行してきたからです。

地球上において、人間同士の争いが起きないように、過去の忌まわしい戦争経験を今一度顧みることが大切です。

今回の平和展では、第二次世界大戦の終盤、中核都市“浜松の空襲”を取り上げました。B29爆撃機が、本土爆撃の帰還途中に余った爆弾を捨てた場所浜松の変わり果てたまちの様子にスポットを当てました。

今回の展示会に、是非共 ご来場頂き「平和の尊さ、命の大切さ」について一緒に考え語り継いでいきましょう。

*日 時 2026年8月11日(火・祝)～8月20日(木) 9時～17時 (20日は15時迄)

*会 場 市民ギャラリー (袋井市役所2階) *テーマ 「浜松大空襲と原爆」

*展示内容

- ④ 写真パネル「浜松大空襲 (浜松復興記念館)」 「原爆と大戦の真実 (袋井勤協)」
- ④ 袋井市及び近隣市町の戦争遺跡 写真パネル (袋井市歴史文化館)
- ④ 平和の詩「生きたいと願った証」 *沖縄県豊見城市立豊崎中学校2年 亀谷琉奈さん
- ④ DVD上映「ドキュメント太平洋戦争 *絶望の空の下で *終戦 (NHKスペシャル)」他



(爆撃機と山積みされている爆弾)

「浜松大空襲」

1944年12月13日から終戦迄、27回の艦砲射撃や艦載機攻撃を受け、全半焼3万戸、死者3,000名等市街地は壊滅状態となった。

東海道の要衝で、軍の施設や軍需工場の集積が要因と言われている。

1945年6月18日未明の空襲では、B29爆撃機が焼夷弾65,000個投下し、死者1,157名・負傷者425名・全焼16,011戸だった。

戦争をしない、させないため「平和憲法を守り、活かしていきましょう。」

*主 催：袋井市勤労者協議会

袋井市栄町5-20 ☎42-3613

*後 援：袋 井 市

袋井市教育委員会